

質の高い豊かな暮らし

木の癒し効果を味わう家

京の木の家づくり

現実住宅のモデル住宅展示

「新町家」=京の木の家に暮らす。

新しい京都の住宅=新町家。次世代の真の「豊かさ」を追求しました答えは、プランニング力と京都の無垢材にあります。門を開きアプローチをぬけ、玄関へ。玄関戸を引くとそこには土間と玄関。引戸を開けると広いリビング。高い天井とアプローチ庭は、狭小敷地を感じない「豊かさ」を生み出します。ゴロンポが見える高い天井の落ち着いた寝室があります。そして、落葉樹のフローリングをはじめふんだんに用いた無垢材に、心地の良さという「豊かさ」を感じます。京山々の家は、狭小敷地に「豊かさ」をもたらします。

無垢材の質感を大切にします



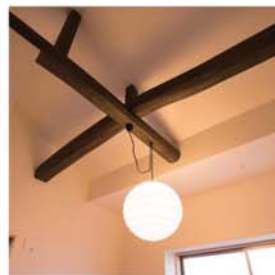
京山々・木の家づくりの会は、工務店、設計事務所、不動産事業者と山の木材業者のメンバーで成り立っています。「山のめぐみを山に還す」を合言葉に山の木材を利用することを目的としています。スギ・ヒノキという針葉樹は構造材として活用します。北山杉を京都の建物の独自性に使います。広葉樹は、建物に華やかさを作り出すことに使います。継承されてきた木の家づくりを斬新な取り組みで継承していきます。

外部との中間領域を大切にします



縁側、ベランダ、バルコニー、地窓、下地窓などは、屋外の自然環境と生活を一体化する伝統的な空間手法です。自然に開かれることによって空間は広がり、四季の自然との会話が始まります。庇下空間は、中間領域と呼ばれ、様々な生活シーンが展開します。狭い部屋も外部空間を取込むと広がりが展開します。一つの空間も四季の変化によって様々な風景を生み出します。自然と共生する住まいづくりです。

木組の構造をあらわします



木造の木組みをあらわすことによって木造住宅の味わいと大工職人の技術を大切にします。我々の技術の誇りとして、引き継がれてきた伝統構法が背景にあります。この伝統構法の良い部分を取込み木造文化の継承を試みています。特にゴロンポと呼ばれる丸太の梁を扱うには大工職人の技術が必要です。そしてこの構造のあらわしは、空間に広がりを持たせを落着かせる効果があります。

引戸建具を出来るだけ用います



日本の「引戸建具」を見直しています。空間の狭い日本の住宅で、室内を広く使ったり、区切って使う便利な家の間仕切りが、引戸建具です。日本の木を使った木建具の引戸にすると場所を取らず、美しく、空間を多様に使うことができます。日本の家づくりにフィットする部材がこの木の引戸です。忘れ去られた感のある木建具を再度テーマに取り上げましょう。